

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田禎一郎

2019年6月23日（日）

主 題：「君は愛されるために生まれた」

ーベスト・ライファー

テキスト：ヤコブの手紙4章4，5節

はじめに

- ・今朝は、最近の欧州情勢から少しお話ししたいと思います。
ヨーロッパは、大変混迷を深めています。難民受け入れ国第1位のドイツでは、2015年以来約170万人の難民認定を求める人々が流入してきました。その内、本国へ送還できたのは、まだわずか約2万4000人にすぎません。
- ・ドイツに大量の難民が流入したことによって、国内では混乱が生じています。
それは約170万人もの難民が認定されるまで（約3年）、ドイツ政府は彼らの「衣食住」の面倒を見ています。それは全て、国民の税金でまかなわれています。ドイツ国民の不満はエスカレートしてきました。そこで AfD(ドイツのもうひとつの選択肢)という極右政党が、急躍進し議席数を伸ばしています。
- ・難民問題は、フランス、イタリア、ギリシャ、スペイン、そして北欧諸国にも影響を与えています。陸続きの各国に大量の難民が流入してきました。今はもうかつての「ヨーロッパ」ではありません。これまで白人がメインであった欧州は、あらゆる人種の人々が住み始めるようになりました。
- ・そういう中、5月末に行われた欧州議会選挙では、議席の約3割が欧州統合の懐疑派となりました。その懐疑派は極右翼、ポピュリズム（大衆迎合主義）の人々です。主要国のフランス、イタリアでは、懐疑派が第1党となりました。英国内では、EU離脱派、賛成派は激しく対立し、メイ首相は辞任へ追い込まれました。
- ・かつて、世界各地へキリストの福音を宣べ伝えるため、宣教師を送り出した時代の英国の繁栄は、姿を消してしまいました。ハドソン・テーラー、ジョージ・ミュラー、ジョン・ウエスレーなど、今なお名声が残る信仰の先人たちはいません。本当に残念であります。
- ・今英国にあるのは、激しい「対立」です。欧州における対立問題は、欧州だけではなく、どこの国行っても見られることです。
- ・皆さん。大変残念ながら、多くの人々が敵、味方という構造の中で苦しんでいます。神が人をお造りくださったはじめは、敵、味方という対立構造ではありませんでした。本来は互いに愛し、愛される関係にありました。対立の原因は、人間が神から離れてしまったからです。神から離れた人間は、愛から離れ、対立構造の中に生きるようになりました。それは、今の時代に始まったことではありません。

- ・皆さん。今日は、国際政治ほど大きく考えなくても結構です。もっと小さく考えれば、私たち個人と個人も対立することがあります。神を信じるクリスチャンも例外ではありません。ヤコブはここで、クリスチャンが心に留めておかなければならない敵が何であるかを教えています。
- ・そこで私たちは今日、クリスチャンの敵について、そしてどのような歩むべきかを考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. 私たちの人生の誘惑

- ・一般的に言って、クリスチャンには3つの大きな敵がいると思います。ヤコブの手紙には、その3つが全部でてきます。

1) 3つの敵

① 世

4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

- ・ここに「世」(cosmos : コスモス)という語が出てきますが、これは神に敵対する考え方、体系のことです。つまり神を除いた人間世界のこと、神を認めない、受け入れない世界のことです。私たちはこの世の中で、何気なく生活していますが、そのことを忘れてはいけません。この世というものは、私たちの信仰をもつ足を一生懸命引っ張る敵なのです。
- ・たとえば、日曜日はゆっくり羽を伸ばして休むという考えが世にはあります。私たちがそういう中で、毎日曜日に教会へ行き礼拝の席に着くことは非常に尊いことです。しかしこの世の傾向は、私たちの心をくすぐり、礼拝に行かないで、世の人が楽しむことを選ぶよう誘惑をかけてきます。世は、巧みに働きかけて、私たちを神から引き離そうとします。そういうわけで、世は私たちの敵です。

② 悪魔

4:7 ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。

- ・悪魔は、作り事では決してありません。神が目に見えないお方であるのと同じく、悪魔も見えません。依然として存在しています。悪魔は今も私たちに働きかけ、私たちを陥れようとしている敵です。

③ 罪

4:8 罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。

- ・ヤコブは、「罪ある人たち」と声をかけました。罪という問題について、きちんと神の前でけじめをつけておかないと「罪ある人たち」となります。ヤコブは、欲望とか、戦いとか、人殺しとか、クリスチャンには関係がないようなことが書いていますが、これはクリスチャンに向けて言われたのです。私たちはこのことを忘れてはいけません。

- ・神はイエスというお方をおして、罪の問題に完全な解放を与えてくださいました。しかし罪はまだまだ、私たちをしぶとく誘惑してきます。

2) 罪の3重丸(性質)

- ・聖書は罪について、はっきりと書いています。罪(hamatia:ハマティア)は本来、「的外れ」という意味です。神という的に向かい生きるべき人間が、神以外のものに目を向け、そしてそれを愛してしまいました。それが罪です。罪には3つの特性があります。

① 神に敵対する罪

4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

- ・ここでヤコブは「貞操のない人たち。」と呼びかけました。これは偶像礼拝を、靈的姦淫ととらえる旧約聖書の教えから出た語です。つまり、ヤコブは神を第一として生きていない人たちに向かい「貞操のない人たち。」と呼びかけました(偶像礼拝は靈的姦淫である)。
- ・世を愛することは、世の友となることで、神に敵することです。具体的には、いつの間にか教会より世の中のことが楽しみとなり、世の考え方、常識、そういうものが第一となってしまいます。そして、自分は神を信じ、教会にも通ってはいるけれども、実質は神より世とお友達になってしまっているのです。
- ・だから、日曜日に友達に「ちょっと来いよ」と誘われると、神から礼拝に招待されていることも忘れて、友達が招いて方へ行ってしまいます。それが神に背を向けて、神に敵対する生き方だと教えているのです。こういうことは、もともと私たちの中心にありました。クリスチャンになっても、ここを本当に解決しておかなければ、多かれ、少なかれ、こういう問題にぶつかります。
- ・聖書が「罪」というときには、まず「神に敵する」という問題があります。このために、次の問題が発生します。

② 心の中にもつ罪

4:3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。

- ・これは心の中にもつ罪です。あるいは2節を見てください。

4:2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。

- ・ここに、「ほしがる」、「うらやむ」という言葉が出てきます。心の中で、「ほしいな」と思う事が、即、罪ではありません。1節には「欲望」という言葉が出ていますが、神は私たちが生きるに必要な「欲求」を与えてくださいました。欲求は罪ではなく、度を越えた欲望が問題なのです。
- ・私たちの目には見えませんが、確かに心というものがあります。その中で、さまざまな思いを私たちは持ちます。神が喜ばれない罪があるのだと、聖書は明らかに教えていま

す。

③ 行いに現れる罪

- そして、その罪が行いに現れてきます。
2節にでてきた「盗み」、「人殺し」などは、この一番具体的な例です。行いとして、目に見えることとして犯す罪です。これらの罪は、私たちが神に従っていない、敵対している罪の結果であるという仕組みになっています。
- では、私たちはどうすれば良いのでしょうか。ヤコブは、「イエスを信じ、罪赦され救われた私たちであっても、こういう罪の中に生きていないか」と問いかけました。もし、いつまでもそういうところに居続けているならば、考えなければならないよ、と私たちに呼びかけてくれています。
- 皆さん。人間関係で「対立」を引き起こす最大の問題は、このように罪に起因します。しかし、イエス・キリストが来臨され、十字架にかかってくださったのは、この問題を解決するためでした。そして対立ではなく、勝利の歩みをするためです。それでは、どう生きるのでしょうか。それが第二のポイントです。

2. 神にあって、愛し、愛される生き方

- 4:5 **それとも、「神は、私たちのうちに住ませた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」という聖書のことばが、無意味だと思いませんか。**
- 皆さん。私たちの内には聖霊というお方がお住みくださっています。それはすばらしいことです。こんな私の中に、ご聖霊が住んでくださるようになったのです。まず、そのことをここで言っています。
- 次に父なる神は、その聖霊をねたむほどに慕っておられます。ヨハネは、私たちは神の子であると繰り返し言いました。パウロは、あの罪の中にあつたコリント教会の人たちを「聖徒」と呼びました。ヤコブはここで、あなた方の中には神の御霊がおられるのだと言っています。
- 神は、お前たちは罪深いからだめだ、と言っておられるのではありません。あなたがたは、御霊を住ませている存在なのです。それなのに、なぜ？ と深い愛から来る嘆きを持って私たちに語りかけてくださっているのです。
- 皆さん。神に愛され、御霊が内に住んでくださる者でありながら、もし世を愛し続け、罪の中で当たり前のように生きていたならば、それは悲しいことではありませんか。 **1 ヨハネ 2：15**
2:15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。

- では、どうすれば良いのでしょうか？

⇒**神のみことばを額面どおりに受け止めることです。**

神は、私たちがまだ罪人であったときに、私たちを愛してくださいました。そしてキリスト・イエスを信じた今、さらに私たちを愛してくださいます。しかもその愛はね

たむほどに激しく深いものです。

- ・あなたも愛されている存在です。ですから、私たちは愛する生活を志そうではありませんか。プレイズソングに「君は愛されるため生まれた」
(You Are born To Be loved)という名曲があります。この讃美歌を味わってみましょう。

君は愛されるため生まれた
君の生涯は 愛で満ちている
永遠(えいえん)の神の愛は
われらの出会いの中で実を結ぶ
君の存在が 私には
どれほど大きな喜びでしょう
君は愛されるため生まれた
今もその愛受けている

ま と め

主 題：「君は愛されるため生まれた」

ーベスト・ライフー

- ・今日、私たちはヤコブをとおして、神に愛されていることを学びました。
愛し、愛される関係、それは神にあって可能です。次のポイントを学びました。
1. 誘惑（罪）にまけない生き方をする ⇒ 「聖書」
 2. みことばを額面どおり受け止める ⇒ 「聖書」

* God bless you!